

10/1 から赤い羽根共同募金運動がはじまります

○75 回目の赤い羽根共同募金運動が、186 億 6 千万円を目標額として、10 月 1 日(金)からスタートします。

○パンデミックの状況下、居場所を失って孤立したり、経済的に困窮する方がたが増えています。

○全国すべての地域で、そうした困りごとを解決する活動に助成を行っている赤い羽根共同募金の役割は、例年にも増して重くなっています。

○地域のたすけあいを支え続けるため、今年も赤い羽根共同募金運動は、さまざまに工夫しながら活動していきます。

令和 3 年度の共同募金運動

○共同募金は、じぶんの町で集められたご寄付が、じぶんの町のたすけあい活動に活かされる「じぶんの町を良くするしくみ。」です。

○パンデミックにあって、通常の募金の呼びかけが難しくなるなか、各地域では知恵をしばって、**新しい募金手法**を模索しています。

○助成においては、令和 3 年度は重点的に、**パンデミックの影響で孤立化したり、経済的に困窮する方がたを支援する運動**を各地で展開しています。

○ここでは、令和 3 年度の運動展開の重点に沿って、**共同募金の「募金」と「助成」に関するトピック**をご紹介します。

☆令和3年度の「募金」のトピック

◆Suica で共同募金に寄付ができる？（神奈川県共同募金会）

コロナ禍で対面型の街頭募金活動がほとんど実施できないなか、神奈川県共同募金会では試行的に Suica 端末を用いた街頭募金の試みを実施することとなりました。

寄付者の任意の金額を、設置された端末を使って寄付する仕組みで、「接触」の機会をもたない街頭募金の手法として試行されることになりました。

10 月 1 日の運動開始日には、JR 東日本の協力により、横浜市の桜木町駅で街頭募金活動を実施するほか、以後県内で設置を希望するイベント会場等でも同様の取り組みを行う予定です。

☆令和3年度の「助成」のトピック

◆「コロナ禍でも“思い出づくり”を諦めない」（栃木県共同募金会 鹿沼市）

令和 2 年度、パンデミックの影響により、「晴れの舞台である成人式」「練習の成果を発揮するスポーツ少年団、部活動の大会」「大切な仲間の門出を祝う歓迎送迎会」など多くの催しが延期・中止となりました。

栃木県共同募金会鹿沼市支会では、このような中でも「感謝」や「つながり」を忘れず、少しでも前を向いて進めるように、大切な人との思い出作りの活動を赤い羽根共同募金の助成により、応援することにしました。

ルールはたった一つ。「大切な人のために思い出になる事」として、市内在住の方から活動を募集しました。採用された活動は、クラスメイトとの卒業記念品づくりや施設で暮らす祖父母とのリモート会食会など多様ですが、どれもコロナ禍において明るく前向きに過ごすことができました。

▼思い出作り応援事業 報告動画は下記よりご覧いただけます。

https://www.youtube.com/watch?v=Ps8EGcw_uZ8



高校 3 年生最後の学校祭が延期になり諦めていたクラス T シャツを作成

◆「生活困窮から、福井の女性を助けたい」キャンペーンの取り組み（福井県共同募金会）

福井県共同募金会では、共同募金運動に先立って展開されている「赤い羽根 新型コロナウイルス感染下の福祉活動応援全国キャンペーン」の一環として、経済的な理由で生理用品を買うのに苦労している女性を対象とした、募金と配布のキャンペーンを展開しています。

キャンペーンは、普段から共同募金の助成を受けて活動を行っている地域の母子寡婦福祉連合会等と協働し物資が届く仕組みを構築しつつ展開されています。

行政などでも、生理用品を配布する取り組みに着手する地域が増えていますが、配布が窓口受付であることから、利用をとまどう方も多いといえます。このキャンペーンでは、利用者の側に立って、訪問による手渡しなどを行うことによって、利用する際の心理的な不安を軽くするよう、配慮しながら展開されています。



新型コロナウイルス ワクチン職域接種会場にて募金協力の呼びかけ

◆外国にルーツがある人たちや医療ケア児を応援する助成を実施（中央共同募金会）

長期化する新型感染症の影響下において①国内に在住し、さまざまな困難の状況にある外国にルーツがある人たちへの支援活動を応援する助成および②医療ケア児や障がいがある子どもたちの療養環境向上の活動を応援する助成を実施いたします。

①「外国にルーツがある人々への支援活動応援助成」は、新型感染症の影響によって、生活に困窮する、社会的に孤立する、必要な情報や医療につながりにくい等、さまざまな困難の状況にある外国にルーツがある人たちへの多様な支援活動を応援するもので、9月下旬から助成応募受付開始を予定しています。また、②「医療ケア児や障がいがある子どもたちの療養環境を向上させる活動を応援する助成」については、2021年内の助成応募受付開始を予定しています。



外国にルーツある人への食糧支援
(特定非営利活動法人 伊賀の伝丸)

「オンライン・キックオフイベント」動画 公開！

- ・令和3年度は、社会情勢に鑑み、毎年実施している著名人ボランティアによる街頭募金イベントは、開催を見送ることとしました。
- ・その代わりに、著名人の皆さまにメッセージをいただき、共同募金運動への参加を呼び掛ける「オンライン・キックオフイベント」動画を作成しました。
- ・動画では、NHK大河ドラマ『青天を衝け』で、渋沢栄一の娘 うたを演じる小野莉奈さん、厚生労働大臣の田村憲久さん、赤い羽根サポーター（共同募金運動ポスターモデル）の桜井日奈子さん、大相撲七月場所三賞受賞者である琴ノ若関、豊昇龍関ほかからメッセージをいただいています。
- ・「オンライン・キックオフイベント」動画はYoutube「赤い羽根共同募金チャンネル」にて10/1(金)の12時から配信いたします。

★小野莉奈さんからのメッセージから

渋沢栄一は、起業家として活躍しただけでなく、社会体制が大きく変化した時代に、現代でいう社会福祉の充実のために力を尽くした人物でもあります。

経済と社会福祉、その双方に、自分の利益のためでなく、社会のためにお金を生かすという渋沢栄一の信念が貫かれています。

新型コロナウイルスにより、不安を抱える人、生活が困難になる人が増えていると言われてはいますが、渋沢栄一が今の時代を生きていたならば、きっと、社会で生きるみんなが助け合い、支え合うための行動を起こしていたと思います。

赤い羽根共同募金チャンネル <https://www.youtube.com/user/TheCCCJ>

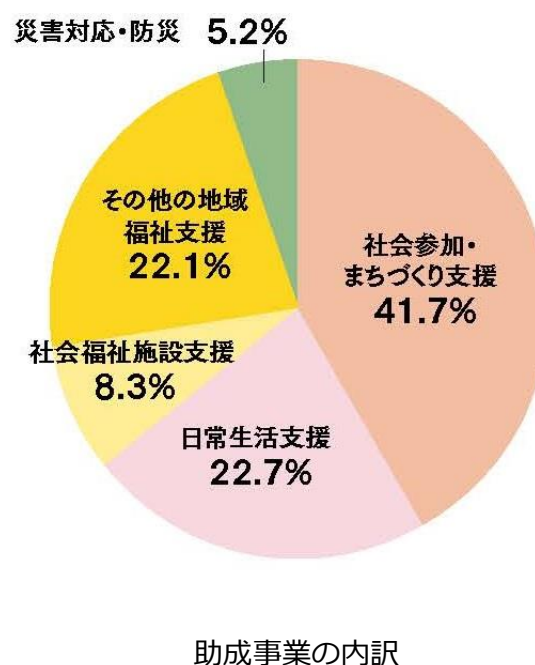
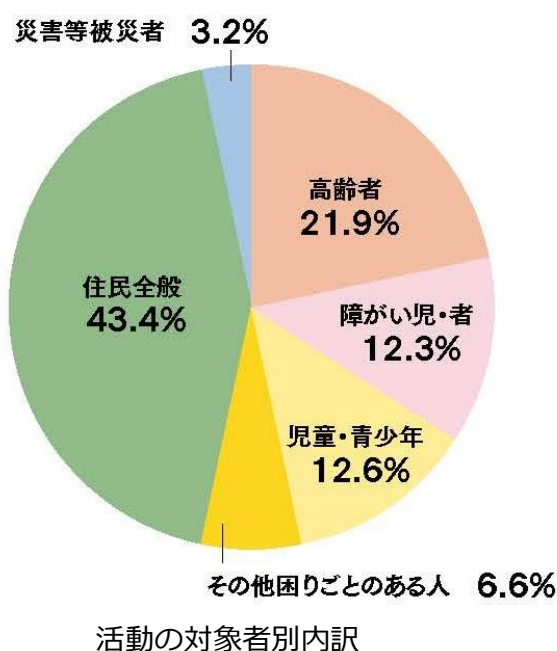
共同募金運動の概要（参考）

◆令和3年度 共同募金運動実施概要

- 実施期間 令和3年10月1日(金)～令和4年3月31日(木)
- メインテーマ 「じぶんの町を良くするしくみ。」
- 目標額 18,666,653,859 円

◆令和2年度に実施した助成事業の内訳

- 令和2年度助成総額 143億7,736万6,108円
- 令和2年度助成件数 47,618件



「つながりをたやさない社会づくり～あなたは一人じゃない～」
パンデミック下における赤い羽根共同募金による助成活動

- 共同募金会では、助成で行っている活動において、対面型でない新たなつながりづくりの機会を促進するなど、助成を通じた価値創造を模索しています。
- 中央共同募金会ホームページでは、赤い羽根共同募金の助成から、新たなつながりの創設につながった活動事例を紹介しています。

<https://www.akaihane.or.jp/bokin-tsunagari-josei/>

●お問い合わせ先

社会福祉法人 中央共同募金会 運動推進部

TEL:03-3581-3846 E-mail: suishin@c.akaihane.or.jp

さまざまな地域課題、社会課題を解決するための活動への助成例

(2020年度募金に基づく助成実績)



生活困窮者支援

フードバンク運営、子どもの学習支援など

支援先 2,008団体
対象者 811,374人
助成総額
10億4,045万円
(1団体あたり平均助成額518,154円)



災害避難者支援、防災

震災避難者支援、炊き出し訓練など

支援先 1,895団体
対象者 2,650,523人
助成総額
5億6,842万円
(1団体あたり平均助成額299,957円)



児童虐待防止

虐待防止セミナー、児童養護施設支援など

支援先 671団体
対象者 319,335人
助成総額
2億6,335万円
(1団体あたり平均助成額392,483円)



こども食堂

こども食堂の運営、食事・学習支援など

支援先 331団体
対象者 112,437人
助成総額
1億1,228万円
(1団体あたり平均助成額339,245円)



いじめ防止

いのちの電話運営、広報啓発活動など

支援先 168団体
対象者 431,929人
助成総額
5,816万円
(1団体あたり平均助成額346,191円)



防犯

新入生への防犯グッズ配布、地域防犯活動など

支援先 183団体
対象者 246,161人
助成総額
4,652万円
(1団体あたり平均助成額254,232円)



うつ病患者支援

心の健康づくり講演会、サロン開催など

支援先 13団体
対象者 1,784人
助成総額
4,489万円
(1団体あたり平均助成額345,350円)



自殺防止

いのちの電話運営、自死遺族の会開催など

支援先 61団体
対象者 148,114人
助成総額
2,935万円
(1団体あたり平均助成額481,310円)



ドメスティックバイオレンス防止・被害者支援

シェルター運営、自立・就労支援活動など

支援先 45団体
対象者 7,832人
助成総額
2,223万円
(1団体あたり平均助成額494,097円)



不登校児童・生徒支援

フリースクール運営、親の会運営支援など

支援先 93団体
対象者 31,610人
助成総額
2,103万円
(1団体あたり平均助成額226,189円)



犯罪被害者支援

支援相談員養成、被害者向けリーフレット作成など

支援先 26団体
対象者 28,858人
助成総額
1,753万円
(1団体あたり平均助成額674,237円)



在日外国人支援

日本語教室、多言語トラブル相談など

支援先 56団体
対象者 5,046人
助成総額
1,623万円
(1団体あたり平均助成額289,938円)



薬物依存症者支援

リハビリ施設運営、中高生の薬物乱用防止教育など

支援先 54団体
対象者 54,002人
助成総額
1,526万円
(1団体あたり平均助成額282,643円)



ホームレス支援

路上生活者への食事提供、自立支援活動など

支援先 55団体
対象者 5,234人
助成総額
1,132万円
(1団体あたり平均助成額205,926円)